

2019年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、日本各地で様々な自然災害が発生しました。被害に見舞われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、昇降機が重要な社会インフラであるという使命のもと、今後も有事の際の一刻も早い昇降機の復旧に向け、体制を強化してまいります。

2018年を振り返りますと、これまでに積み上げてきたものが実を結び、新たな展望が開けた、当社グループにとって大きな節目となる1年であったと思います。

まず1点目は、設立25年を迎えたことです。失われた30年と言われる経済低迷期においても、絶えず成長・発展を続け今日に至ることができましたのも、ひとえにステークホルダーの皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

2点目は、東京証券取引所市場第一部（東証一部）への市場変更です。2017年3月のマザーズ上場から、わずか1年半という短期間で本則市場へのステップアップを達成し、会社として新たなステージへ昇ることができました。

3点目は、新たな事業や商品・サービスの拡張です。4月にはJES Innovation Center（通称JIC）の試験塔にて研究開発を進めてきた「Quick Renewal」の販売を開始しました。工事完了まで約半日で完了できる低コスト・短納期の新サービスであり、来るべきマーケットの拡大に向けて対応機種の増強を図っております。また5月には子会社（エレベーターメディア株式会社）を新たに設立しました。ここでは、エレベーターのカゴ内に防犯カメラ内蔵のサイネージ・スクリーンを無料で設置し、動画広告等を配信するといった、従来の保守事業に新たな付加価値を加えるサービスをスタートさせております。

当社グループは2019年を「新しいステージの初年」と位置付け、25年の蓄積を基盤に、更なる成長・発展を図ってまいります。既存エリアの管理台数の増加、エリアの拡大、提供サービスや商品の拡充を通じた積極的な事業拡大の推進はもちろんのこと、従業員教育・研修にも引き続き注力し、技術力・サービス品質の更なる向上を図ってまいります。

「何よりも安全のために」「見えないからこそ手を抜かない」「信頼を礎に」の経営理念の下、引き続き適正価格で高品質なサービスの提供に努めてまいります。

最後となりますが、皆様のこの一年のご発展とご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2019年1月7日
ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長 CEO 石田 克史